

子供の町 だより



創刊： 昭和24年11月
発刊： 社会福祉法人 子供の町
児童養護施設 子供の町
児童養護施設 エンジェルホーム
地域小規模児童養護施設 菜の花
住所： 〒344-0112
埼玉県春日部市西金野井337
TEL: 048-746-0206
FAX: 048-746-9215
HP: <https://kodomonomachi.jp/>

「新しい元号の誕生を前に」

社会福祉法人 子供の町
会長兼理事 田中 文男

間もなく元号が変わります。

新しい時代の訪れです。

そう言えば、日本がアメリカと戦争をしていたことなど、もう、忘れていて人の方が多いかも知れませんね。何しろ戦争が終わって七十四年も過ぎたのですから。

いま、児童相談所の設置に住民の方々が反対している東京港区の高級住宅地。あのあたりだって米軍の空襲で焼野原だったんです。私自身、激しく投下された焼夷弾で東京が燃える光景を今でも記憶しています。

空襲から逃れるため子ども達は集団で田舎へ疎開させられました。戦争が終って都会に戻ってみると家も家族もみんな消えていました。

身寄りを失った子ども達はターミナルである上野駅や大宮駅で雨露をしのぎました。いわゆる戦災孤児です。そのような子ども達に家と生活の場を与えようと「子供の町」は創られました。一九四九年、今から七十年前のことです。

今は戦災孤児の人は居りません。

でも、悲しいことに親災孤児の人が沢山います。虐待されたり、家庭に事情があったりして施設で生活しなければならない子ども達がここに大勢おられます。

この子ども達が元気に社会に羽搏けるようにサポートするのが私達の役目です。

「ここで生活できて良かった」

「ここで働いて良かった」

そういう施設でありたいし、親災孤児が少しでも

少なくなるために努力する、それが会長としての役目だと思っています。

親災孤児という新語を勝手に私は造ってみました。

「退所者への支援」

子供の町・エンジェルホーム施設長
根岸 昇

「仰げば尊し 我が師の恩・・・」昭和世代の卒業式といえば必ず歌い、何気なく口ずさんでいましたが、近年ではめったに歌われないようです。中学校(16名)・高校(3名)・支援学校高等部(1名)の卒業式が終了し、高校入学説明会・アパートへの転居・グループホーム入居準備など、すでに4月からの新しい舞台に向かって歩み出しています。

さて、平成最後の新年も3ヶ月過ぎますが、卒園生の結婚・妊娠の情報・報告がすでに3組ありました。しかも、子供の町・エンジェルホームの卒園生同士あるいは在園していた人同士で、学年が2～3学年異なる20才前後のカップルなのです。先日の夕方、見慣れない若い男女が園庭で子どもたちと話をしていましたが、20才のAさんと18才のB君でした。Aさんにはすでに新しい命が宿っていました。私の記憶では、Aさんは3～4年間の在籍、B君は低学年の時に家庭引き取りになったと思いますが、どこに接点があったのでしょうか。とにかく、B君には今の仕事を地道に続けてAさんと新しい命を守ることをお願いし、Aさんには「何か困ったことがあったら早いうちにCさん(家庭支援専門相談員)に相談してね!」と何度も伝えました。とにかく心配!

心配です。

家庭支援専門相談員の主な業務の一つに、退所した子ども・保護者への支援があります。かつて、子供の町・エンジェルホームでは担当寮舎の男性職員や主任が中心的に担っていましたが、日常的な生活支援をしながらの退所者支援は片手間になってしまいがちですし、個人的な負担（経済的・精神的）も大きくなります。今年度からは両施設 2 名ずつ家庭支援専門相談員を配置し、男女 1 名の組み合わせにしました。卒園生や保護者への相談支援内容によっては同性支援が望ましいからです。直近の支援ケースは内夫から DV 被害を受けていた他県に暮らす女性の卒園生です。今回は生活困窮に伴う経済的援助が主でしたが、家庭支援専門相談員（男女）2 名が他県に出向いて本人と会い、内夫から逃げて自立する覚悟を決めれば身の安全を確保するために関係機関に働きかけて支援すること、今のままで単なる経済的援助は出来ないことを伝え、日用品・食材・テレホンカードを提供するに留めました。そして、内夫から逃げる覚悟を決めた際の支援については誓約書を作成し、本人との合意（契約）に基づく支援であることの根拠を確実に残すように準備しました。

児童福祉法第 4 1 条は「児童養護施設は、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設」と定義しています。退所した者とは卒園一就労自立した卒園生だけではなく家庭引取になった者も含むと解釈すれば、喜ばしい若年退所者の結婚・妊娠報告が「負の連鎖」に決してならないような見守り・支援も私たちには求められているのです。

今春は 2 名の大学進学者が措置延長 20 才までの施設生活継続を決めました。一人は旧職員寮に入居、他一人は出身寮に併設している旧職員居室を改修して、入所児とは別居室で大学生活をスタートします。18 才の春、彼らはどのような花を咲かせるのでしょうか。



職員寄稿

「定年退職を迎えて」

書記 上野久雄

昭和 51 年に入職してから 43 年になります。この度、定年となりました。

入職した頃は何もわからず、手取り足取り教えていただきました。

何しろ、会計などは何も知らない身でしたので、簡単な本を買い何回も何回も読み勉強したものです。それから 2 ランク、3 ランク上の本を読みふけたものでした。

事務の仕事は会計だけではありません。総務、法務、庶務等々幅が広く、いわゆる「何でも屋」みたいなものです。その様な中、一番困ったのは電話受けでした。相手の顔が見えないため、対応に苦慮しました。その後、どの様な相手であっても丁寧に対応する様努力しました。こちらが丁寧に対応すれば、先方も丁寧になります。

仕事上で一番楽しかったのは、措置費と補助金（当時）の仕組みを読解することでした。後に、予算作成に携わることになりましたが、措置費の仕組みを勉強したためでしょうか、それほど苦勞せずに作成することが出来ました。ただし、収入欄だけです。支出は一年の途中で何があるかわかりません。こちらは補正で対処するしか方法はありません。もっとも、補正と言っても、国の予算とは異なります。国債を利用してお金を増やすわけにはいきません。不足しそうなら、借り入れるか、儉約以外は無いです。相当にきびしく支出を抑えたこともありました。かなり、職員さんに恨まれたことでしょう。

当時の県の補助金は現在とは違い、施設側と県の担当者との対面で決定するようなことが多々ありました。これも措置費の仕組みが基本となっていました。相当担当者とやり合って補助金を増額してもらったことも何回かあります。これは大変楽しかったことの一つです。すべて人件費に使いました。

今となっては、楽しかったことや辛かったことが懐かしく思われます。

職員さんに対しても申し訳なく思っていることも多々あります。厳しい対応をしたり、迷惑をかけたりして本当に申し訳ありませんでした。

施設長をはじめ、多くの職員さんのおかげで今まで仕事を続けることが出来ました。心より感謝しております。長い間、ありがとうございました。また、子どもたちとの楽しい思い出、いつまでも忘れるこ

とはありません。

子どもたちへ—元気で生活して下さい。

専門職より

「里親になる方への支援」

子供の町

里親支援専門相談員 小池るり子

里親になるためには、まず一定の研修を受けます。研修の最後が施設実習です。子供の町では、今年度も複数の里親希望の方の実習がありました。実習の最後に、「振り返り・反省会」をするのですが、ある里親希望の方からこんな話がありました。

「自分は母子家庭で育ちました。縁あって里親になりたいと思いましたが、父親のことは全く知りません。そんな自分が里親になれるのか不安でした。でも、Aさん(実習したユニットの男性職員)の子どもに関わる姿を身近に見て父親のイメージが持てました。Aさんに出会えて本当に良かったです。」

とても嬉しいお話でした。研修における施設の役割を実感しました。施設実習は2日間です。「短い期間の実習で何を学んで頂くか?」と考えたこともありましたが、実習する場所の提供、職員との出会い、それだけでも大きな意味があることを知らされました。

実習をされた方が施設実習をどのように感じたかは、人それぞれとは思いますが、一つでも多くの発見、学びをして頂きたいと思います。そして、里親になったとき、お互い社会的養護の担い手として理解しあえたらと思っております。

祝 卒園

**今年度は、4人が
子供の町から巣立ちます。**

「卒園とこれから」

子供の町 さくら K. H.

中学一年生の冬から暮らす、子供の町での生活も残り僅かとなりました。昨年四月では、まだ先のことになり感じていた卒園が、もう目前まで近づいている今、正直淋しい気持ちでいっぱいです。私は、一緒に暮らしている部屋の子たちが可愛くてとっても大好きなので、四月から一緒に暮らせないと

考えると悲しいです。ですが、少しずつ気持ちを切り替えて前向きな気持ちで一人暮らしを始められるようにしたいと思っています。一人暮らしと同時に始まる二年間の大学生活も、様々なことに積極的に取り組んで自分の糧にしたいと思います。また、児童福祉の分野から子どもに関わる仕事がしたい、という夢に向かって、視野を広くもち一生懸命頑張っていきたいと思っています。そして、今日まで私を見守ってくれた職員の方たちや、陰で支えてくれたすべての方々に感謝をしています。この気持ちを忘れずに、いつか恩返しができるくらい頑張ります。

「今までとこれから」

子供の町 3寮 M. Y.

昨日は今日の昔、1日前であつてももはや過ぎ去った過去であり、月日の経過がとても早い事を言う言葉の様にここで過ごしてきた12年は思えばとても早いものでした。

まだ小学校にも入学していない幼年に自分は来ました。当たり前ですが周りには知らない人しかいなく、とても不安なものでした。それでも周りにもまれ長いものには巻かれ、そうしていくうちに年を重ね高校に進学、今年の春には大学に進学するまでに至りました。

とても早いものでしたが、これからは自分の目指す道を見失うことなく感謝を忘れずこれからの4年間を有意義なものにしていきたいと思ひます。

「子供の町での思い出」

エンジェルホーム 5A寮 Y. K.

子供の町に約10年間いました。私は、小学生からいつもつねにおちつかず5Aの職員によくおこられていて、5Aの職員をこまらせてたけど、子供の町はとても優しく見守ってくれました。そんな私は、今高校3年生になって卒業しました。いろいろとありましたが、子供の町に来て良かったと私は思っています。今まで本当に私たちを見守ってくださりありがとうございます。皆のおかげでこんなにりっぱになりました。これからは、私たちは社会人になり旅立っていきます。私は5Aにいて楽しかったことや悲しかったこともあり、大変だったわたしをここまで見て来てくれてうれしかったです。もし5Aの職員に出会っていなかったら私はちがう人生を送っていました。これからも今までの事は忘れません。5Aの職員の皆さん本当にありがとうございました。

「家」

子供の町 あおば S. F.

僕は子供の町で約16年間暮らしており、大きな不満もなく生活してきました。しかし、辛いことがなかったわけではありません。小学校低学年の時、同じ寮の高校生から、殴る蹴るはもちろんのこと、プロレス技をかけられたり、パシリとして使われたりしました。当時はとても辛かったです。なによりも辛かったのは、それを職員に相談した結果、いじめがエスカレートしてしまい、ただ耐える日々が続いたことです。この時「大人は無力だ。大人に相談したって意味がない。」と当時は強く思いました。それがきっかけとなり、自分が児童養護施設の指導員になる事で、同じような思いをする子を救いたいと思うようになりました。今では夢に膨らみができ、指導員として子ども達に寄り添うこと以外にも、助けを求めている子を探したり、それらを行なうための制度を整える仕事にも興味があります。そのために社会福祉士を取得し、より多くの子どもを救うための知識を深めたいと思っています。

最後に、今ある「S. F.」という人格をつくってくれたのは、僕の家であるこの『子供の町』であり、そこで働くたくさんの職員でした。このような夢を持たたのもこの『子供の町』での生活があったからこそです。本当にありがとうございました。

「卒園生を祝う会」

エンジェルホーム

里親支援専門相談員 小野美智子

卒園生を祝う会に携わり何年になるだろうか？そんな事も忘れてしまうほど長く係としてやってきた。昔は、講堂のステージに上がり、来賓の方々や職員、在園児の前で卒園するにあたっての作文を書いて発表するというものだった。大勢の前で話すということはとても、緊張したに違いない。今は、各寮舎の方でのお祝い会もやっていることから会議室でお客様をお招きして、ささやかではあるが内輪でのお祝い会(食事会)に変わってきた。お祝いの言葉を頂き、音楽でのお祝いなどもあり、なごやかな雰囲気となっている。

昔も今も変わらずに感動するのはやはり、子どもたちが書いた手紙だろう。手がかかり大変だった子どもこの時ばかりはきちんと書いてきて読み上げる。園で過ごしてきた内容で感謝の言葉が綴られている。文を書くのが苦手な子も二行であっても感謝の思いが感じられる文になっている。成長を感じる瞬間 最後に、ありがとうございましたと言えるのは

立派なこと。私たち卒園生を祝う会のメンバーは、そんな彼らの思い出の一つになってくれればという想いで今年も4人の卒園生をお祝いする。

子供の町・エンジェルホーム
では、幼稚園10名、小学生11名
中学生16名がそれぞれ、卒業
しました。

「中学校三年間を振り返って」

エンジェルホーム 9寮 中3 R. T.

僕にとってこの3年間は、ものすごく勉強になった3年間だと思います。そして少し大人になった3年間だと思います。1年生の時は、社会体験チャレンジ「3DAYS」を体験させていただきました。仕事はとても大変だなと思いました。2年生の時は、東京で班別行動をしました。公共のマナーを改めて学ぶことが出来ました。3年生では、京都と奈良を見学しました。大仏やお寺など自然豊かな場所でした。観光客がとても多かったです。自分は、中学校を卒業したら、高校に進学します。中学校で学んだことを生かし、今後の高校生活に生かしていきたいと思っています。最後にこの文を読んでくださり、ありがとうございました。

「中学校卒業」

子供の町 さくら 中3 A. W.

私は、中学生になって、三年間色々な事がありました。まず、最初は先輩と後輩を知りました。後輩になったときは、先輩みたいになりたいと追いかけていました。そして先輩になって、不安でした。先輩方が卒業してしまい先輩はどうすればいいのか不安と責任感がありました。そして三年生になってまた初めての事があります。それは、受験です。やっぱり初めは、受験勉強に手がつきませんでした。それでも、受かりたいという一心で合格する事ができました。



「6年間の思い出」

エンジェルホーム

5B寮 小6 M. K.

卒業まであと、一か月ちょっと。ふり返ると、6年間の思い出がよみがえって来る。春4月。ワクワクしながら、ピカピカのランドセルをしょって、正門をくぐった入学式の日。きれいな校舎に、大きな校庭。6年間の学校生活

が始まった。

私が6年間の生活の中で、楽しかった行事は運動会と、ドリーム集会だ。ドリーム集会ではみんなで楽しくお店の仕事をしながらきずなを深めた。最高に楽しかった。運動会では1年生から6年生までの活躍と共に、6年連続赤組が優勝を果たした。暑かったけれどみんなで作り上げた運動会は大成功だった。持久走で7位を取った事。体育祭のスローガンでか作に選ばれた事。これらの思い出はもうすぐ中学生になる今でも覚えています。

「6年間の振り返り」

子供の町 3寮 小6 K. N.

小学生最後の行事1年から6年の間の日々が長いけれど短くかんじた。

1年生ではむじゃきでおちつきなく毎日のように先生や大人におこられていた。

2年生では1年よりましになり少しずつ成長した。

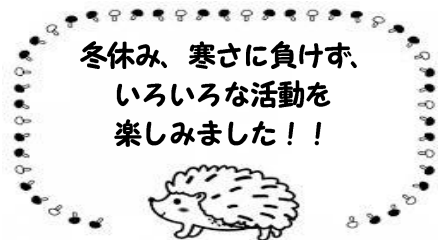
3年生では意識が高まりちょっと成長しつつあり。

4年生では宿題をやる事が増えてきた。

5年生ではおこられる事が減ってきていた。

6年生最後の小学生生活最高学年として年下の子供達の手本になるようにがんばっている。

大人になっても忘れないような卒業式にしたいです。



「スキー合宿を通して」

エンジェルホーム 9寮 保育士 加藤 あき枝

私は今回初めて、冬季活動に参加しました。自分の得意な分野で、子どもたちと一緒に活動を行って、とても楽しく過ごすことが出来ました。

初めは怖がっていた子どもたちも徐々に慣れてきて、上手くスピードコントロールをしながら、安全にスキーを楽しむことが出来ました。初めてスキーをした子もいましたが、中学生ともなれば数時間でブレーキの形が出来るようになり、翌日には一緒にリフトに乗りスキーを楽しむことが出来ました。何より、子どもたちがスキーをすることがた楽しいと言ってくれて、とても良かったです。まずは、スキーを楽しむことから、これからもっと興味を持ってくれたら嬉しいです。

食事の場面や、買い物、バスの中でも、普段はなかなか関わることの出来ない他寮の子どもたちと関わる良い機会となりました。みんな笑顔で活動を楽しんでいました。私自身も思い出に残る冬季活動となりました。

「スノーボーに行つて」

エンジェルホーム 6寮 高1 Y. G.

二月九日に自分たちはスノーボーをやりに行きました。一月に一度スノーボーに行きましたが、それよりもやはり、この日を楽しみにしていました。その理由は、ナイターがあるからです。友達が夜のスノーボーは景色が良くてめっちゃめっちゃ楽しいと聞いていたのでとても楽しみでした。また、昨年からは始めてはいましたが、自分は受験生で行くことが出来なかったからやっと行けるという嬉しさもあります。そして、当日、昼に滑る感覚を取り戻して夜になりました。ナイターでのスノーボーは昼には味わえない楽しみでした。とてもきれいな景色をながめながら滑るのはとても楽しかったです。時間は短かったけど、とても良い思い出でした。また行きたいです。



「冬季活動に参加して」

子供の町 ゆり 中2 M. I.

私は今回スノーボード(冬季活動)に参加して、たくさんのことを学ぶことができました。スキーは中学一年生のときにスキー教室でやったことがありましたが、スノーボードはやる機会がなかったので良い経験になりました。

スノーボードはスキーとは違って、一つの板で滑ります。最初はバランスをとるのが難しく苦戦していましたが、スキーとは違った楽しさにも気づくことができたのでよかったです。

スノーボードだけでなく、もともと仲の良かった他の寮の子や、今まであまり話をしたことがない同い年の子などもたくさんいてその人たちと関わるいい機会にもなりました。

この機会をいかし、他の子供の町の人とも仲良くしていきたいです。

「世界観を広げる」

子供の町 あおば 児童指導員 飯田涼介

『色々な街があり、色々な人がいて、色々な生き方がある。俺達はそれを選んでいい』。それが、この

冬に高校生2名と挑戦した2泊3日のサイクリングのテーマでした。



今回は「富士山を麓から見よう」と走り出し、埼玉、東京、神奈川、静岡と、様々な街を訪れました。子ども達は「この街並みが好き」「将来はあんな家に住みたい」など、通り過ぎて

いく風景に思いを馳せ、また、道中で知り合った人々との会話では「春日部の施設から走ってきました」と、笑顔に自信を浮かべていました。生憎の天候で、富士山は半分が雲に隠れてしまっていたのですが、街と人に焦点を置いた旅は、子ども達に様々な未来を想像させる良いきっかけとなりました。

施設での生活は子ども達のセーフティーゾーンとなりますが、反面、社会認識を狭めてしまう弊害を孕みます。今回の旅をモデルの一つとし、子ども達が楽しみながら視野を広げられる企画を、今後もつくっていきたいと思います。

「サイクリング外出について書きます」

子供の町 あおば 高1 Y. S.

3人でのサイクリングは始め電車で、確か鎌倉まで行きました。

鎌倉の駅前で朝食をとりました。そのあとサイクリングで熱海まで行きました。

熱海に行くと道は山を通りました。海と山に挟まれて良き道でした。それから江の島に行きました。熱海についたときには雨がまあまあ降っていたのですが、宿は閉まっていたので新しい宿を探すことになりました。新しく見つかった宿はいい所でした。熱海は温泉がすごく気持ちよかったです。

楽しいサイクリングになりました。



クラブ紹介

子供の町では、色々なクラブがあり、楽しく参加しています。



サッカークラブ

今年度、初めて施設対抗戦を行いました。



「サッカークラブ」

エンジェルホーム 6寮 児童指導員 靱島直人

子供の町サッカークラブは、練習量が他のクラブと比べて圧倒的に足りず、市の大会に出ても勝

つことが出来ず悔しい思いばかりしてきました。そんな子ども達に勝つ喜びや試合の楽しさを味わってもらうために、実力が同等であろう他施設の子達との交流戦を企画しました。そして、若竹ホーム・カルテット・子供の町の三施設で他施設交流戦が行われました。それぞれの施設から小学生～高校生まで約30名集まりました。参加したクラブの子や、中高生は普段の寮の生活では見る事が出来ない真剣な表情や、いきいきとスポーツをする姿を見る事が出来ました。勝とうと必死になり、点を決めると無邪気に喜んでる姿が印象的でした。



交流戦の開催に当たって、

田中会長を始め沢山の方々に協力して頂きました。厚く御礼申し上げます。また、当日応援に来ていただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。今後とも応援よろしくお願い致します。

「最後の試合を終えて」

エンジェルホーム 6寮 小6 M. M.

ぼくは、2年からサッカーをしてきました。今までサッカーをしてきて楽しかったのが6年でした。

ゲームや練習を一生懸命やり、子町に帰っても練習をしていました。そして、だんだんうまくなっていたのが分かってきました。でも、自分の中ではもっとうまくなりたいという思いもあったりして練習を毎日してきました。そして、うまくなって周りなどの所や味方の位置も分かるようになってきました。ぼくはもうやめてしまったけど、サッカークラブには出来るだけ行きたいと思っています。

「サッカークラブ～振り返ってみて」

子供の町 杏寮 小6 K. F.

私は先週の日曜日でサッカークラブを引退しました。今までたくさん練習してきた中で一番記憶に残っているのは最後に行った田中文男杯です。試合の時、いつも以上に気合が入っていて実際は、よく頑張ったと思います。帰った後の反省会の時に皆から心のこもった色紙をもらえてうれしかったです。あと、田中会長からメダルをもらえたことも嬉しかったです。私が習った4年間の中で色々ありましたがとても楽しかったです。

❁ . . . ❁ . . . ❁ . . . ❁
子供の町あれこれ
 ❁ . . . ❁ . . . ❁ . . . ❁

◆2月のある日、「子供の町クリニック」の新しい女医さんをユニットにご案内した時のことです。玄関から上がろうとすると、5才女児のMちゃんがサッとお客さん用のスリッパを揃えて出してくれたのです。これには驚きました。「Mちゃん有難うね、偉いね!」と誉めました。そのあと、外から帰って来たHちゃん(4才児)は自分の靴を揃えて上がっていきました。これまたびっくり、すぐに誉めました。このような気配りや所作は職員でもなかなかできないことです。担当職員の日常の姿や所作が子どもたちのモデルとして自然な振る舞いとして身につけているのでしょう。職員と子どもたちに感服です!

◆2月14日バレンタインデー。数日前から女児ユニットではチョコ作りで大忙し。保育士さんと一緒に持ってきてくれたのはHちゃん(小1)。どうして私なのかな? 普段あまり接点がないのに・・・そんなことを言うてはいけませんね。スプーンの先にチョコを入れ星形(ピンク・黄色)のキャンディーで彩をつけて可愛く仕上げてありました。

二人目は、何と最近私に対する怒りを職員に爆発させているUさん(中2)でした。施設長室に入ってくるなり「これ!」という感じで渡されました。有難うございます。その時の笑顔に安心しました。思春期真ただ中、母への叶わぬ思いで深く傷つき悩んでいる中で、チョコを作る気持ちのゆとりがあることに安心しました。



◆2月24日サッカークラブ分掌職員の熱い要望が実り、若竹ホーム(上尾市)カルテット(さ

いたま市)の子どもたち(幼児から高校生)を招いてサッカー交流大会を行いました。若い職員たちがボランティア大学生コーチ3人(卒園生と友人2人)からの発案を基に企画書を作成し、施設長を説得して実現。施設長はただただ、どなたかに御支援をお願いするだけ。かねてより田中文男会長から「何かやろうよ、若い人たちが発案してほしいね!」という言葉聞いていたことを思い出し、10日前に田中会長にお電話でお願いし「よしやろう!」の一言で決定。スポンサーが決定したので「第1回田中文男杯(カップ)」と命名し、優勝カップとメダル(子町サッカークラブ6年生用)発注。

当日は風もなく穏やかに晴れて、ちびっこから中高生・職員も参加しての熱戦が繰り広げられ、中高生の若竹・カルテット合同チーム対子町・エンジェル合同チームの試合は球際の速さやボールさばきなど、とても見ごたえがあり興奮しました。幼児から低学年は5人制。3施設合同チーム対子町・エンジェル合同チームで楽しみました。

サッカークラブは小学生男女が主役です。スポーツ少年団に加入していないため、公式試合は年2大会。卒業記念にと企画発案され、若竹ホーム・カルテットの子どもたちとの交流試合も楽しみ、最後に田中会長からメダルを首にかけてもらいました。そして、第1回田中文男杯の優勝カップは、子町・エンジェル合同チーム(中高生)の手に!

途中までは若竹ホームに傾いていましたが、最後に対職員チームに6対1で勝った得失点差による優勝でした。運営・審判・出場と大活躍のボランティア学生コーチに深謝!

◆サッカー交流大会でのことです。小1男児S君が田中会長のそばに来て一言。

「ねーねー、壁作って!」何のことだかわかりますか? クライミングの壁です。最近、子どもたちの外出でクライミに挑戦して寮舎が増えます。趣味でライミング



企画
 ング
 いる
 てい
 ク
 を楽
 (男
 女)

が複数いることの影響もあるでしょう。テレビ放映の影響もあるのかな。

S君の一言に田中会長もにっこり！実は日本にクライミング競技を導入した功労者が田中中文男会長（前日本山岳協会会長）なのですから。

- ◆子供の町では法人の田中会長が創立65周年記念に創設した「田中中文男賞」があります。平成30年度の受賞者は給食室職員全員（パート職員含む）に決定し、3月13日最終職員会議において賞状と賞金10万円を贈呈しました。受賞理由は保健所による「食品衛生監視指導・立入検

査」(抜き打ち)があり、施設の構造・職品取扱設備・給水及び汚物処理・管理運営・職員取扱者の5区分の検査で100点満点の評価を得たこと。抜き打ち検査で10年連続の快挙です。定員削減により現在の食数は160～170食。子どもと職員の食の安全と健康を担う給食室職員として当たり前のことですが、当たり前のことを励行している日常業務の完璧さは法人職員の模範であり称賛に値するものです。子どもたちと職員のために有難いことです！



H31年2～3月に寄付金・寄付品を頂いた方々(順不同・敬称略)

アットホーム
 阿部 トシ子
 荒木 嗣則
 アリックス株式会社
 アリックス株式会社
 春日部市商工会議所青年部
 カーブス 4店舗
 ㈱小泉襪紙加工所
 小泉 雅行
 小口 鈴子

小堀 正子
 コストコ新三郷倉庫店
 雑賀 由美子
 中村 美雪
 日本チャリティ活動支援協会
 長谷川 浩一
 吉野雄三
 ㈱日本サラダ
 田中 文男
 ㈱太平 ランドセル募金

太平 内牧夢らんど
 太平 かすかべ夢らんど
 太平 杉戸夢らんど
 太平 平方夢らんど
 太平 エルアンドエル
 太平プレイランド関宿店
 浜友観光㈱
 楽園 南越谷店
 他 匿名の方

子どもたちのために、たくさんのご支援ありがとうございました

*子供の町のホームページを開設しております。是非ご覧ください。

<http://kodomonomachi.jp/>